

ごみの減量・再資源化に関する市民説明会 概要
【真田中央公民館】

1 開催概要

開催日時		令和 8 年 7 月 16 日(木) 19:00～20:10
開催場所		真田中央公民館 第 1 会議室 A B
出席者	市民	26 名
	行政(市職員)	環境部長、 ごみ減量企画室 3 名、廃棄物対策課 2 名、 資源循環型施設建設関連事業課 2 名、 真田市民サービス課 3 名

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	最終処分場	埋め立てが完了した室賀最終処分場の現状はどうなっているのか。	室賀最終処分場は、令和 6 年 3 月にその役割を終え、現在は更地となっており、草刈等を市で行い管理を行っている。
2	出しません袋	生ごみ出しません袋は、集積所にも 1 世帯分しか出ておらず、PR が不足しているのではないか。	市でも PR 方法が課題となっているが、令和 7 年度はイベント時や来庁者への周知を強化するなどした結果、昨年度に比べ 100 件多い 487 件の申請があった。今年度は申請窓口の拡大もしており、更なる周知に努めてまいりたい。
3	サラ・さらさ	清浄園で実施している「サラ・さらさ」は今年で配布を終了すると聞いたが、その事情を教えてほしい。	「サラ・さらさ」は、清浄園から発生した有機汚泥を乾燥させ焼却した「汚泥焼却灰」だが、清浄園の廃止に伴い配布を終了することとなる。

4	環境教育	ごみの問題やごみの行方などは、子供のうちから教育すべきと考えるが、そのような計画をしているか。また、実際に行っているのか。	市内の小学4年生は毎年社会科見学としてクリーンセンターに来て学習している。また、小学生向けのチラシ「ごみはどこへ行く？」の全校への配付や、希望する中学生はクリーンセンターで職場体験をしている。このほか、園児向けにも環境教育を始めており、今後もこれらの取組を広げていきたい。
5	資源循環型施設	資源循環型施設が令和13年度に稼働予定であるが、当初計画から何年遅れとなっているか。また、その間の維持管理費用はどの程度か。	当初のごみ処理広域化計画は平成11年に策定しているため、そこから26年ほど経過している状況である。 約10年前は3クリーンセンター合わせて年間5～6億円の維持管理費用だったものが、現在は10億を超えてきている。
6	最終処分場	最終処分場が無いとの説明であるが、処分場はどのように考えているか。	ごみ処理事業は、広域4市町村（上田市・東御市・長和町・青木村）で行っており、上田市が焼却施設を建設することから上田市以外の市町村で計画することとなり、場所の選定といった検討を行っている状況である。
7	資源循環型施設	市では「稼ぐ市役所」を掲げているが、資源循環型施設は、年間でどのくらい稼ぐ見込みなのか。	資源循環型施設は、安全安心にごみを処理する施設であり、稼ぐ施設はあまり想定していない。 事業系ごみの処理料金や焼却熱による発電・売電収入は、施設の維持管理や運営に充てていく。